

新入学生の服飾に関する意識の調査研究

著者	佐野 千佐, 高岡 朋子
雑誌名	北海道女子短期大学研究紀要
巻	12
ページ	1-9
発行年	1979
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00001943/

新入学生の服飾に関する意識の調査研究

A Survey of First-Year Students' Consciousness Concerning Dress-Making Arts

佐 野 千 佐 高 岡 朋 子
Chisa Sano Tomoko Takaoka

I は じ め に

新入学生が服飾美術科を志望した大きな目的は服飾に係わるあらゆる分野を勉強し、服装についての造詣を深めるためと思うが、本学の特性として被服の縫製分野がかなりのウエイトを占めている。被服構成実習（洋裁）の履修単位は、服飾美術コースでは9単位必修、家庭科学コースでは2単位必修、2単位選択となっており両コースの履修単位にかなりの差があるが、この被服構成の実習指導にあたって、平素から学生の服飾に対する意識に興味をもっている。既に得た知識や環境によって自己の適性を把握した上で、それぞれのコースを選択したことと思うが、「被服を中心に学ぶ」目的で入学した学生の具体的な考え方について、実習を専門としている立場から、入学の動機や、服飾への関心、将来に対する方向等についてとらえ、今後のよりよい授業への参考資料にしたいと考えた。履修教科内容によって異なる服飾本来の服飾美術コースと、食物家政系学科を多く開講している家庭科学コースの学生について検討し、問題点を探るためにこの調査を行った。

II 方 法

1. 調査方法

調査対象は昭和54年度入学の服飾美術コース学生67名、家庭科学コース学生98名、計165名を対象にした。服飾美術コースには授業の終了時に、家庭科学コースにはH R時においてアンケート方式により調査した。調査時期は6月、回収率は服飾コース89%、家庭コース95%である。

2. 調査事項

アンケートによる調査事項は次のとおりである。進学を希望した理由、関心を持つ科目について、洋服購入時に考慮する点について、流行やファッションに対する関心等について、卒業後の進路について、等を記入させた。

III 結 果 と 考 察

1. 服飾美術科を希望した理由

各コースの学生がどのような目的をもって入学したか、質問項目は、(1)将来服飾に関係のあ

る仕事につきたい、(2)洋裁に関する知識、技術を学びたい、(3)服飾関係の勉強が好きである、(4)周囲の人にすすめられた、(5)実習は苦手であるが家政系の勉強も出来る、(6)中学校家庭の教諭資格を得るため、その結果は表1に示したとおりである。

1位にあげた項目は、服飾美術コースの入学生では「洋裁に関する知識、技術を学びたい」、つぎに「服飾関係の勉強が好き」、「将来服飾関係の仕事につきたい」となり、この3項目で約70%を占め、服飾美術コースを選んだ目的意識が明確にうかがえる。家庭科学コースの入学生では「中学校家庭の教諭資格を得るため」が約半数を占め、つぎに「実習は苦手であるが家政系の勉強も出来る」をあげている。このことは両コースの入学生の意識が極めて対象的であるといえる。

表1 服飾美術科を希望した理由

質 問 項 目	服飾コース		家庭コース		全 体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1. 将来服飾関係の仕事につきたい	10	14.9	3	3.1	13	7.9
2. 洋裁に関する知識、技術を学びたい	23	34.3	9	9.2	32	19.4
3. 服飾関係の勉強が好きである	13	19.4	9	9.2	22	13.3
4. 周囲の人に勧められた	6	9.0	7	7.1	13	7.9
5. 実習は苦手であるが家政系の勉強も出来る	1	1.5	18	18.4	19	11.5
6. 中学校家庭の教諭資格を得る	7	10.4	46	46.9	53	32.1
7. そ の 他	7	10.4	6	6.1	13	7.9
計	67	100	98	100	165	100

2. 関心を持つ科目について

短大に入学して(1)特に興味を持つ科目、(2)専門科目の中で興味ある科目、(3)日常生活に関連あると思う科目、この3項目について質問した。

(1) 特に興味を持つ科目

短大に入学して特に興味を持つ科目は何か、では一般教育科目、専門科目を問わず服飾美術科の開講科目より1位から3位まで3科目を選ばせた(表2)。服飾コース学生と家庭科学コース学生では多少異なり、服飾では1位が圧倒的に洋裁が多く、手芸、調理がこれについている。家庭科学では和裁、調理、洋裁と、両コースともそれぞれ専門の実習科目をあげた点で共通しているが、専門外科目からは、教育心理学、心理学を選んでいるのは、さきに述べた如く家庭科学コースの学生に、教職課程履修者が多いためで、入学の理由とも関連性のあることを示している。

(2) 専門教科の中で興味ある科目

服飾は、被服学の広範囲な分野の一つと見るが、材料、造形、着装、管理の面が互に関連をもって成り立つ学問であるだけに、実習面はもとより基礎的理論の理解が必要である。

服飾美術科では、被服構成実習と平行して専門科目が多く開講されているが、これらの中から何に興味をもつのか、1位から3位までの科目を選ばせた(表3)。服飾美術コースでは洋裁が圧倒的に多く、ついで手芸、染色をあげている。家庭コースでは調理、和裁、洋裁を選び、

調理に対してきわめて高い関心を示していることがわかる。両コースとも、ここでも実習科目に関心をもっているのが特徴といえる。

表2 興味を持つ科目

全体165 { 服飾コース67
家庭コース98

順位	科目	洋 裁	調 理	和 裁	服 飾 デザイン	手 芸	教育心理	心 理 学	染 色	色 彩 学	記入者数	無 記 入
1位	服 コ ー ス	21 (31.3)	9 (13.4)	1 (1.5)	6 (8.9)	5 (7.5)	3 (4.5)	2 (3.0)	3 (4.5)	— (—)	63 (94.0)	4 (6.0)
	家 コ ー ス	15 (5.1)	16 (16.3)	22 (22.4)	— (—)	— (—)	8 (8.2)	10 (10.2)	11 (11.2)	2 (2.0)	98 (100)	— (0)
	計	36 (21.8)	25 (15.2)	23 (13.9)	6 (3.6)	5 (3.0)	11 (6.7)	12 (7.3)	14 (8.5)	2 (1.2)	161 (97.6)	4 (2.4)
2位	服 コ ー ス	11 (16.9)	6 (9.2)	— (—)	1 (1.5)	13 (20)	2 (3.1)	2 (3.1)	2 (3.1)	— (—)	56 (86.2)	7 (10.8)
	家 コ ー ス	11 (11.2)	22 (22.4)	24 (24.5)	— (—)	— (—)	6 (6.1)	2 (2.0)	8 (8.2)	8 (8.2)	96 (98.0)	2 (2.0)
	計	22 (13.7)	28 (17.4)	24 (14.9)	1 (0.6)	13 (8.1)	8 (5.0)	4 (2.5)	10 (6.2)	8 (5.0)	152 (94.4)	9 (5.6)
3位	服 コ ー ス	3 (4.5)	6 (9.0)	— (—)	4 (6.0)	9 (13.4)	1 (1.5)	— (—)	2 (3.0)	— (—)	52 (77.6)	15 (22.4)
	家 コ ー ス	9 (9.2)	20 (20.4)	14 (14.3)	— (—)	3 (3.1)	2 (2.0)	4 (4.1)	8 (8.2)	4 (4.1)	89 (90.8)	9 (9.2)
	計	12 (7.3)	26 (15.8)	14 (8.5)	4 (2.4)	12 (7.3)	3 (1.8)	4 (2.4)	10 (6.1)	4 (2.4)	141 (85.5)	24 (14.5)

人数(%)

表3 専門科目で興味ある科目

全体165 { 服飾コース67
家庭コース98

順位	科目	洋 裁	和 裁	調 理	手 芸	服 飾 デザイン	栄 養 学	染 色	服飾工芸	家族関係	記入者数	無 記 入
1位	服 コ ー ス	18 (26.9)	1 (1.5)	3 (4.5)	5 (7.5)	11 (16.4)	1 (1.5)	6 (9.0)	3 (4.5)	— (—)	64 (95.5)	3 (4.5)
	家 コ ー ス	13 (13.3)	14 (14.3)	11 (11.2)	8 (8.2)	4 (4.1)	5 (5.1)	12 (12.2)	1 (1.0)	2 (2.0)	98 (100)	— (—)
	計	31 (18.8)	15 (9.1)	14 (8.5)	13 (7.9)	15 (9.1)	6 (3.6)	18 (10.9)	4 (2.4)	2 (1.2)	162 (98.2)	3 (1.8)
2位	服 コ ー ス	11 (16.4)	5 (7.5)	9 (5.5)	8 (7.5)	2 (3.0)	1 (1.5)	6 (9.0)	5 (7.5)	— (—)	64 (95.5)	3 (4.5)
	家 コ ー ス	7 (7.1)	23 (23.5)	22 (22.4)	10 (10.2)	2 (2.0)	4 (6.0)	7 (7.1)	3 (4.5)	1 (1.0)	98 (100)	— (—)
	計	18 (10.9)	28 (17.0)	31 (18.8)	18 (10.9)	4 (2.4)	5 (3.0)	13 (7.9)	8 (4.8)	1 (0.6)	162 (98.2)	3 (1.8)
3位	服 コ ー ス	7 (10.4)	— (—)	12 (17.9)	7 (10.4)	3 (4.5)	2 (3.0)	9 (13.4)	10 (14.9)	5 (7.5)	63 (94.0)	4 (6.0)
	家 コ ー ス	7 (10.4)	14 (21.0)	20 (30.0)	6 (9.0)	2 (3.0)	9 (13.4)	6 (9.0)	1 (1.5)	3 (4.5)	97 (99.0)	1 (1.0)
	計	14 (8.5)	14 (8.5)	32 (19.4)	13 (7.9)	5 (3.0)	11 (6.7)	15 (9.1)	11 (6.7)	8 (4.8)	160 (97.0)	5 (3.0)

人数(%)

(3) 日常生活に関連あると思う科目

ここでも(2)と同様に選ばせた(表4)。服飾美術コースでは調理, 洋裁, 栄養学。家庭科学コースでは調理, 洋裁, 栄養学, 家庭経営をあげている。専門に学びたいと思う科目と日常に係あると思う科目とは区別して考えていることがわかった。服飾コース, 家庭コース共に調理, 栄養学を選んだのは, 生活と密着する食生活を考え合わせた結果と思う。また家庭経営学をあげたことも同様と思われる。

表4 日常生活に関連あると思う科目

全体165 { 服飾コース67
家庭コース98

順位	科目	洋裁	和裁	調理	栄養学	食品学	家庭経営	家族関係学	被服管理学	消費科学	記入者数	無記入
1位	服コース	17 (25.4)	— (—)	30 (44.8)	4 (6.0)	— (—)	1 (1.5)	— (—)	4 (6.0)	3 (4.5)	65 (97.0)	2 (3.0)
	家コース	14 (14.3)	2 (2.0)	49 (73.1)	9 (9.2)	3 (3.7)	11 (11.2)	2 (2.0)	2 (2.0)	3 (3.1)	98 (100)	— (—)
	計	31 (18.8)	2 (1.2)	79 (47.9)	13 (7.9)	3 (1.8)	12 (7.3)	2 (1.2)	6 (3.6)	6 (3.6)	163 (98.8)	2 (1.2)
2位	服コース	9 (13.4)	1 (1.5)	19 (28.4)	7 (10.4)	7 (10.4)	4 (6.0)	1 (1.5)	1 (1.5)	1 (1.5)	65 (97.0)	2 (3.0)
	家コース	20 (20.4)	5 (5.1)	19 (19.4)	17 (17.3)	12 (12.2)	13 (13.3)	6 (6.1)	1 (1.0)	4 (4.1)	98 (100)	— (—)
	計	29 (17.6)	6 (3.6)	38 (23.0)	24 (14.5)	19 (11.5)	17 (10.3)	7 (4.2)	2 (1.2)	5 (3.0)	163 (98.8)	2 (1.2)
3位	服コース	9 (13.4)	1 (1.5)	8 (11.9)	19 (28.4)	4 (6.0)	4 (6.0)	1 (1.5)	1 (1.5)	1 (1.5)	62 (92.5)	5 (7.5)
	家コース	16 (16.3)	8 (8.2)	12 (12.2)	28 (28.6)	8 (8.2)	2 (2.0)	7 (7.1)	2 (2.0)	3 (3.0)	96 (98.0)	2 (2.0)
	計	25 (25.5)	9 (9.2)	20 (20.4)	47 (48.0)	12 (12.2)	6 (6.1)	8 (8.2)	3 (3.1)	4 (4.1)	158 (95.6)	7 (7.1)

人数(%)

3. 洋服購入について

最近の急速な被服産業の発達は, オーダー仕立ての時代から既製服の時代に移行した感があり, 工業生産による既製服は, 量, 質ともに豊富に出回っている。消費者が求めるサイズやデザインが多様で, 特に日常着においては一部を除き, 大半の人達が既製服の中から好みの洋服を購入している現状である。

このように大量生産の時代に学生が自分の洋服を求めるとき, 何に重点をおくかの間に対して, 両コースとも1位は, 好みのデザインが圧倒的に多く, つづいて好みの色, 価格, 素材の順に選んでいる。日常着の購入に際しては, 好みのデザイン, 好みの色, 価格, 素材等を重視して, 縫製, 流行についてはあまり問題視していないということである。これは衣服の審美性を重視するとともに, その機能性をも重要視していることの現れとも言える。しかし, 縫製を6位に選択していることは, 日常着の耐久性, すなわち洗濯や摩擦に絶え得るかどうかの考慮をしていないのではないかとと思われる。更にデザイン, 色が好みのもので, 価格が引き合えば長年着ることを考えず, いわゆる使い捨ての感覚を持って着るのではないかと推測する。

つぎに外出着の選択順であるが, 好みのデザイン, 好みの色, 流行, 素材, 価格, 縫製の順

になっており、日常着との相違は、「流行のもの」が3位になっていることである。これらの点から、外出着は価格よりも流行を重視し、しかも素材のよいものを購入しているということがいえる。この場合の外出着は街着を含めて考えていると思う（表5）、（表6）。

表5 日常着の購入選択順

順位	項目	好みのデザイン	好みの色	縫製	流行のもの	素材	価格	無記入	計
服飾コース	1	34(50.7)	6(8.9)	0(—)	2(3.0)	5(7.5)	19(28.4)	1(1.5)	67(100)
	2	15(22.4)	31(46.3)	1(1.5)	5(7.5)	3(4.5)	11(16.4)	1(1.5)	67(100)
	3	12(17.9)	18(26.9)	0(—)	12(17.9)	8(11.9)	14(20.9)	3(4.5)	67(100)
	4	4(6.0)	9(13.4)	3(4.5)	13(19.4)	20(29.8)	12(17.9)	6(8.9)	67(100)
	5	0(—)	1(1.5)	19(28.4)	15(22.4)	22(32.8)	6(9.0)	3(4.5)	67(100)
	6	0(—)	0(—)	39(58.2)	13(19.4)	6(9.0)	2(3.0)	7(10.4)	67(100)
	計	65	65	62	60	64	64	21	402
家庭コース	1	44(44.9)	19(19.4)	1(1.0)	6(6.1)	10(10.2)	18(18.4)	0(—)	98(100)
	2	24(24.5)	41(41.8)	0(—)	6(6.1)	13(13.3)	14(14.3)	0(—)	98(100)
	3	16(16.3)	23(23.5)	4(4.1)	12(12.2)	19(19.4)	23(23.5)	1(1.0)	98(100)
	4	11(11.2)	8(8.2)	6(6.1)	18(18.4)	19(19.4)	31(31.6)	5(5.1)	98(100)
	5	2(2.0)	4(4.0)	27(27.6)	24(24.5)	27(27.6)	3(3.1)	11(11.2)	98(100)
	6	0(—)	1(1.0)	50(51.0)	23(23.5)	5(5.1)	7(7.1)	12(12.2)	98(100)
	計	97	96	88	89	93	96	29	588

人数(%)

表6 外出着の購入選択順

順位	項目	好みのデザイン	好みの色	縫製	流行のもの	素材	価格	無記入	計
服飾コース	1	38(56.7)	12(17.9)	0(—)	10(14.9)	3(4.5)	3(4.5)	1(1.5)	67(100)
	2	21(31.3)	32(47.8)	2(3.0)	4(6.0)	1(1.5)	6(9.0)	1(1.5)	67(100)
	3	4(6.0)	18(26.9)	0(—)	13(19.4)	11(16.4)	19(28.4)	2(3.0)	67(100)
	4	2(3.0)	2(3.0)	7(10.4)	18(26.9)	17(25.4)	17(25.4)	4(6.0)	67(100)
	5	1(1.5)	2(3.0)	10(14.9)	12(17.9)	23(34.3)	15(22.4)	4(6.0)	67(100)
	6	0(—)	0(—)	42(62.7)	7(10.4)	9(13.4)	4(6.0)	5(7.5)	67(100)
	計	66	66	61	64	64	64	17	402
家庭コース	1	56(57.1)	22(22.4)	2(2.0)	8(8.2)	9(9.2)	1(1.0)	0(—)	98(100)
	2	27(27.6)	39(39.8)	5(5.1)	12(12.2)	9(9.2)	6(6.1)	0(—)	98(100)
	3	9(9.2)	19(19.4)	4(4.1)	21(21.4)	22(22.4)	22(22.4)	1(1.0)	98(100)
	4	1(1.0)	13(13.3)	9(9.2)	19(19.4)	23(23.4)	30(30.6)	2(2.0)	98(100)
	5	5(5.1)	1(1.0)	24(24.5)	18(18.4)	27(27.6)	17(17.3)	6(6.1)	98(100)
	6	0(—)	2(2.0)	48(48.9)	16(16.3)	5(5.1)	18(18.4)	9(9.2)	98(100)
	計	98	96	92	94	95	94	18	588(100)

人数(%)

4. ファッションの影響

ファッションの多様化が社会現象や市場動向にさまざまな影響を及ぼしているが、服飾を目指すのであれば、多かれ少かれファッション情報を敏感にキャッチせざるを得ないのが現状である。学生にとっても無関心に過ごされないファッションについて質問した(表7)。

両コースとも1位は雑誌、週間誌が圧倒的に多く、つづいて専門誌、衣料専門店、街頭をあげ、5位に選んだものは、服飾コースでは新聞、テレビ。家庭コースでは知人、友人と、わずかに両コースの相違があらわれている。学生の日常の生活を考え合わせると、雑誌、週刊紙は「アンアン」「ノンノ」等であり、専門誌として考えられるものは、「ドレスメーカー」「装苑」外国のファッション雑誌であろうと推察する。(書店での調査によると、若い女性の購読率の高いものは「MC シスター」「アンアン」「ノンノ」であった。)このような雑誌の情報に左右されて、すぐその服を買うとは思えないが、購入する時の意志決定に影響を与えていることは確実であると思う。デパート、学校の授業を選んだものは少く、デパートの一般大衆性は、常に新しいものや、刺激を求めて自己主張をしている若者の好みには合わなく、ファッションが個性化している現状と合致していると思う。なお、学校の授業を選んだものが少いのは、ファッションは、マスメディアを通して知るものとなり、もはや授業では知るものではなくて来ていると言える。このことは他の研究者によっても言われていることで、我々にとっても一つの課題であろう。

表7 ファッションの影響

項目 順位		デパート	衣 料 専 門 店	街 頭	専 門 誌	雑 誌 週 刊 誌	新 聞 テ レ ビ	学 校 の 授 業	知 人 人 人	解 答 者 数
服 飾 コ ー ス	1	4 (6.4)	8 (12.9)	4 (6.5)	15 (24.2)	24 (38.7)	4 (6.5)	－ (ー)	3 (4.8)	62 (100)
	2	9 (14.5)	10 (16.1)	8 (12.9)	16 (25.8)	12 (19.4)	2 (3.2)	1 (1.6)	4 (6.5)	62 (100)
	3	6 (10.2)	16 (27.1)	13 (22.0)	7 (11.8)	7 (11.9)	5 (8.5)	－ (ー)	5 (8.5)	59 (100)
	4	11 (18.6)	5 (8.5)	17 (28.8)	4 (6.8)	6 (10.2)	7 (11.9)	－ (ー)	9 (15.3)	59 (100)
	5	8 (14.8)	6 (11.1)	8 (14.8)	5 (9.3)	4 (7.4)	12 (22.2)	1 (1.9)	10 (18.5)	54 (100)
	計	38	45	50	47	53	30	2	31	296
家 庭 コ ー ス	1	7 (7.4)	8 (8.4)	5 (5.3)	17 (17.9)	46 (48.4)	5 (5.3)	－ (ー)	7 (7.4)	95 (100)
	2	16 (16.8)	13 (13.7)	13 (13.7)	16 (16.8)	24 (25.3)	7 (7.4)	－ (ー)	6 (6.3)	95 (100)
	3	13 (13.8)	19 (20.2)	21 (22.3)	16 (17.0)	9 (9.6)	5 (5.3)	1 (1.0)	10 (10.6)	94 (100)
	4	14 (15.2)	13 (14.1)	19 (20.7)	7 (7.6)	6 (6.5)	13 (14.1)	1 (1.1)	19 (20.7)	92 (100)
	5	14 (16.1)	8 (9.2)	10 (11.5)	7 (8.0)	6 (6.9)	19 (21.8)	3 (3.4)	20.23.0)	87 (100)
	計	64	61	68	63	91	49	5	62	463 (100)

多項目解答・人数(%)

5. 流行について

流行とは何か、「着装、生活、娯楽、旅行など特定の時代²⁾に人びとの集団によって採用される受容された方法である」といわれているが、流行の対象として考えられるのは服装、装身具

ヘアスタイル、流行歌、その他さまざまなものがある。ここでは服装、装身具について本学の洋裁実習授業と結びつけて考えた（表8）。

「流行に関心がある」では服飾40.9%、家庭38.8%と両コースとも流行についての情報は積極的に取得しようとする態度が見受けられる。「なるべく取り入れる」は服飾コース22.6%、家庭コース20.6%とわずかに服飾コースが多く、流行についてある程度取り入れた方が良くとしているのは、専攻上、当然の結果であると言える。「こだわらず気に入ったもの」は服飾コース29.6%、家庭コース35.6%と家庭コースが多く、「関心がある」とほぼ同数のパーセントであるのは、流行に関心はあるが、流行に左右されずに気に入ったものを着ようとする姿勢がうかがわれる。総じて、両コースとも流行への関心が強く、なるべく採用するという積極性を持ちながら、一方では「流行にこだわらない」ことに共感するものが多い。なお、「個性がないから嫌い」としているのは、わずかに3%であり、この数字から、流行は「個性が無い」とは思っていないことが推察できる。

表8 流行について

質問項目 \ コース	服飾コース	家庭コース	計
関心ある	47 (40.9)	62 (38.8)	109 (39.6)
関心ない	3 (2.6)	3 (1.9)	6 (2.2)
すぐ取り入れる	2 (1.7)	2 (1.25)	4 (1.5)
なるべく取り入れる	26 (22.6)	33 (20.6)	59 (21.5)
こだわらず気に入ったもの	34 (29.6)	57 (35.6)	91 (33.1)
個性がないから嫌い	3 (2.6)	3 (1.9)	6 (2.2)
計	115 (100)	160 (100)	275 (100)

多項目解答・人数 (%)

6. 卒業後の進路

卒業後についてどのように考えているか、就職したい、進学したい、更に就職希望者はどのような分野を望んでいるかを質問した（表9）。

殆んどの者が就職を希望し、その大半が「専門の職業」をあげている。服飾コースでは教職より専門職を、家庭コースでは教職が圧倒的に多く70%強に及んでいる。専門外の職業については一般商社の事務をあげ、特に家庭コースに多かった。進学を希望した者については進学先の具体的なものは得られなかった。以上のことから服飾コースでは教職希望も多いが、やはり自分の専門的な仕事に進むことを望み、家庭コースでは教職に就きたいという気持ちがよくあらわれている。特に質問項目の中から教職と専門外の一般商社事務の2項目を選んだものが18%強あり教職が不可能であれば一般商社でもと、就職に対する強い意志が感じ取られる。現状の教職採用状況がある程度認識した上で一般商社も併記したものと思う。また服飾専門分野の就職については、新入学生であるためにこの分野の職種に未知の者も若干いると思うが、希望したものは服飾専門店のデザイナー、カッター、縫製、販売やデパート等大手販売店の販売員、仕入れ業務やファッション産業メーカーのデザイナー、カッター、販売員、企画担当などをあげ、

将来に大きな期待を持っている。

なお、就職問題では一般家政学部を持つ4年制の大学でも、大きな問題として取り上げ、その開拓に苦慮しているが、被服系の出身者にも種々社会への対応策が考えられている。昭和46年に衣料管理士の制度が確立され、昭和49年度卒業生から消費者保護等の行政分野でも活躍しているという(近藤一夫氏³⁾)。これには専門的な知識と多年の経験が必要であろうが、北海道においても企業や、道の消費者センター関係、生活改良普及員をめざす者にとって、その資格取得が何らかの形で問題にされる時が来るかも知れない。

表9 卒業後の進路

項目 コース	就 職												進 学	そ の 他	総 計		
	専 門					専 門 外										計	合 計
	教 員	専門店	パート	メーカー	計	一 般 社 会	金 融 関 係	公務員	販 売 業	学校病 院事務	その他	記入者 無し					
服 飾 コース	14	13	5	14	46 (66.7)	7	3	0	0	0	2	0	12 (17.4)	58 (84.1)	7	4	69 (100)
家 庭 コース	47	3	6	4	60 (48.4)	43	6	1	3	4	1	1	59 (47.6)	119 (96.0)	5	0	124 (100)
全 体	61	16	11	18	106 (36.2)	50	9	1	3	4	3	1	71 (24.2)	177 (60.4)	12	4	193 (100)

多項目解答・人数(%)

Ⅳ お わ り に

被服構成実習において、指導の方向を知る一助にと、服飾美術科新入生の志望理由や服飾に関する意識調査を行った。結果をまとめると次のようである。

① 進学を希望した理由では、服飾美術コースは、洋裁が好きで洋裁に関する知識、技術を学び、将来服飾関係の仕事につきたいので本学を選んだとするものが約70%おり、家庭科学コースは、教員志望の学生が約50%、そのほか実習よりむしろ家政系の勉強が出来る、を入学の理由としている。

② 服飾美術科向け全教科の中から関心を持つ科目では、両コースとも洋、和裁等自分に関係のある実習科目をあげ、専門科目の中から選んだ結果も同様に実習科目が多く、興味、関心の対象になっていることがわかった。日常生活に関連ある科目の中からでは、生活に密着する調理実習をあげている。

③ 日常着、外出着の選択順では、両コースともに審美性を重視し、デザインや色が自分の好みに合ったものを購入している。縫製について考慮されていないのは、対象が新入生であるからと思う。

④ ファッションや流行に対しては、ファッションの情報源は雑誌、週刊誌等に求め、流行には強い関心を持ちながらもストレートに左右されない姿勢がうかがえる。

⑤ 卒業後の進路については、服飾美術コースは専門に関係ある職業につきたいとしており、家庭科学コースは教職と専門外の一般商社に就職することを希望している。

今回の調査で、以上のような結果を得ることが出来、各点から問題点を見出した。これを足
がかりとして今後更に調査を続け、指導の参考資料にしたいと思う。

参 考 文 献

- 1) 戸叶光子：流行のサイクルを早めるもの，文化女子大学研究紀要，第6号，1975
- 2) 柳 洋子：流行の構造，文化出版局，1978. 7
- 3) 近藤一夫：家政学（被服系）出身者の社会への対応，衣生活，第21巻，第1号，1978
- 4) 衣生活編集部：服飾専門学校新入生実態調査，衣生活，第21巻，第4号，1978
- 5) うらべ・まこと：ファッション雑誌とアパレル企業との関係，衣生活，第21巻，第5号，1978
- 6) 香日文字他：本学学生的生活実態と意識に関する調査研究，大手前女子短期大学研究集録，第
2号，1976
- 7) 高橋 翠：服装研究への資料論的アプローチ(1)，衣生活研究，第6巻，第2号，1979

(1979.10.11)